

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Persistent eczema leads to both impaired growth and food allergy: JECS Birth Cohort

和文タイトル: 持続する湿疹は成長障害だけではなく食物アレルギーとも関連する

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター
サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: PLoS ONE

年: 2021

DOI: 10.1371/journal.pone.0260447

筆頭著者名: 山本 貴和子

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

本研究では、子どもの早期発症の持続性湿疹について、体重、身長、および肥満度指数(BMI)との関連、さらには食物アレルギーとの関連を検討した。

方法:

エコチル調査参加者の子どもが3歳になるまでの全国調査データを用いて、湿疹と体重、身長、BMI、食物アレルギーの関連について解析を行った。1歳、2歳、3歳時点の質問票調査から、湿疹歴、身長、体重、医師の診断による食物アレルギーの有無を把握した。

結果:

1歳から3歳まで湿疹が持続する子どもは、湿疹がない子どもと比較して有意に身長が低かった(回帰係数 -0.177 ; 95%信頼区間 $-0.214 - -0.139$)。同様に、湿疹が持続する子供は、湿疹がない子供と比較して体重やBMIが有意に低かった。また、湿疹は食物アレルギーと関連を示し、特に1歳から持続する湿疹がある子どもは、2歳や3歳時からの湿疹を有する子どもと比較しても、食物アレルギーの頻度が特に高かった(オッズ比 11.794 ; 95%信頼区間, $10.721 - 12.975$)。

考察(研究の限界を含める):

本研究から、子どもの早期発症の持続性湿疹は身長、体重、BMIと食物アレルギーと関連することが示された。湿疹のなかでも、早期発症し、持続する湿疹は、子どもの発育および食物アレルギーに最も強く関連していた。本研究の限界点として、食物アレルギーの診断の有無については保護者による回答となっていること、除去食など治療の影響を考慮できていないことが挙げられる。

結論:

乳児期発症で持続する湿疹は、身長や体重といった発育に加えて、食物アレルギーとも関連することが示された。このような湿疹を有する子どもについて、身体発育と食物アレルギーについての評価を注意深く継続する必要性が示唆された。